

# 水泳授業の効果的な事業 形態に関する研究

南畑 健二

## はじめに

### <自己紹介>

名 前：南畑 健二（みなみはた けんじ）

学 歴：2023年3月 大阪市立大学大学院 都市経営研究科  
博士前期課程修了（都市経営）

勤務先：ミズノスポーツサービス株式会社

資 格：健康運動指導士、JATI-ATI、上級スポーツ施設管理士、  
フィットネスクラブ・マネジメント技能士2級など

大阪市立大学大学院

都市経営研究科 修士学位論文

（修士論文）

水泳授業の効果的な事業形態に関する研究

—自校プール、プールの共同利用、市民プール、

民間プールの活用による質的な効果の違い—

(Research on the Effective Scheme in Swimming Lessons at the School :  
Difference in Qualitative Effectiveness of Using School's Pool, Shared Pool,  
Public Pool or Private Pool)

2023年3月

大阪市立大学大学院 都市経営研究科

都市経営専攻 都市政策・地域経済コース

M21AA515 南畑 健二 (MINAMIHATA, Kenji)

## 研究背景

### < 学校プール授業の現状・課題 >

- 生徒数・プール数の減少  
 ...生徒数の減少（少子化）により公共施設の適正化を図るため学校の統廃合等（財政難）によりプール数の減少
- 低稼働率  
 ...学校プールのほとんどが屋外プールであり、夏季のみ稼働している場合が多い
- プール老朽化  
 ...2016年時点で建て替え（施設の更新）の目安である30年を経過している施設が過半数
- 教員の水泳指導力  
 ...全教員が均一の水泳指導を行うことが難しい現状

表 1-3 在籍者数（小・中・高校の合計）の変化

	1985年	2018年	増減率 (1985年を100%)
① 在籍者数 (名)	22,263,236	12,915,198	-42.0%
② 学校数 (校)	41,624	35,059	-15.8%
③ 1校当たりの在籍者数 (名)	535	368	-31.1%
④ プール設置数 (ヶ所)	28,707	24,394	-15.0%
⑤ プール設置数当たりの在籍者数 (名)	776	529	-31.7%

(出所) 図 1-2 をもとに筆者作成

## 研究背景

### <水泳授業の場>

●水泳授業を自校プール以外の場所で行うケースが増えている

●教員だけでなく、インストラクターを活用した水泳授業を行うケースも増えている

表 1-4 最近における年代別の水泳授業の場（形態）

単位：ヶ所

取組年度	学校プールの共同利用		市民プールの利用		民間プールの利用		合計	
	ヶ所	割合	ヶ所	割合	ヶ所	割合	ヶ所	割合
～2000年代	1	14%	2	11%	0	0%	3	4%
2010年代	3	43%	6	33%	18	34%	27	35%
2020年代～	3	43%	10	56%	35	66%	48	62%
合計	7	100%	18	100%	53	100%	78	100%
全体比率	9%		23%		68%		100%	

（注）自治体で複数の実施場所（A校は市民プール、B校は民間プール等）が存在するため、数値の合計値と「合計」の値は一致しない。表 1-5 に同じ。

（出所）各資料をもとに筆者作成

表 1-5 最近における市町村規模別学校水泳授業の場（形態）

単位：ヶ所

規模別	学校プールの共同利用		市民プールの利用		民間プールの利用		合計 (a)		（参考） 全体の自治体数 (b)		実施率 (a/b)
	ヶ所	割合	ヶ所	割合	ヶ所	割合	ヶ所	割合	自治体数	割合	
特別区	1	14%	1	6%	1	2%	3	4%	23	1%	13%
政令市	0	0%	1	6%	3	6%	4	5%	20	1%	20%
中核市	0	0%	0	0%	9	17%	9	12%	62	4%	15%
特例市	0	0%	1	6%	4	8%	5	6%	23	1%	22%
中都市	1	14%	3	17%	11	21%	15	19%	170	10%	9%
小都市	5	71%	11	61%	22	42%	38	49%	517	30%	7%
町村	0	0%	1	6%	3	6%	4	5%	932	53%	0%
合計	7	100%	18	100%	53	100%	78	100%	1747	100%	4%

（注）中都市（人口 10 万人以上の市）、小都市（人口 10 万人未満の市）

（出所）各資料をもとに筆者作成

表 1-6 水泳授業の場（形態）と水泳授業担当者の関係

単位：ヶ所

水泳授業の場（形態）		水泳授業担当者						合計	
		教師		インストラクター（民間）		協働（教師+インストラクター）			
水泳授業の場（形態）	学校プールの共同利用	4	36%	2	4%	1	7%	7	9%
	市民プールの利用	5	45%	7	13%	6	40%	18	23%
	民間プールの利用	2	18%	43	83%	8	53%	53	68%
	合計	11	100%	52	100%	15	100%	78	100%
	全体比率	14%		67%		19%		100%	

（出所）各資料をもとに筆者作成

## 研究背景

<自治体の動き（自校プール以外の活用とインストラクターの活用により期待すること）>

- ・ 教員に加えて民間プール施設の指導員による指導で、児童にとって個々の泳力に応じた指導が受けられる
- ・ 屋内プールのため天候に左右されず授業が実施でき、水温・水質も良好で紫外線対策としても効で、安全性も高い
- ・ 衛生管理業務等の学校負担の軽減が図られる
- ・ 民間委託することで、建設費・維持管理費などを含んだ総費用が削減できる
- ・ 学校プールの維持管理にかかる財政的な負担が軽減できる
- ・ 学校プールの衛生管理にかかる教職員の事務及び人的負担が軽減できる
- ・ 時期や天候に左右されない計画的な水泳授業ができる
- ・ 事故や緊急時の設備が充実しており、安全性が担保されている
- ・ プール設置場所の跡地を有効活用することができる
- ・ 専門のインストラクターを活用した水泳指導ができる
- ・ 教員の水泳指導のスキルアップの機会となる
- ・ 複数の専門のインストラクターを活用した水泳指導ができる
- ・ 子どもの技量に応じたグループ分けによる水泳指導の体制ができる
- ・ 天候に左右されない計画的な水泳指導ができる
- ・ 1年の中で計画的に水泳指導ができる
- ・ 外部から視線の遮断や騒音配慮などの対応が不要となる
- ・ 学校プールの水質・水流防止の管理が不要となる
- ・ 改築後のプール設置場所を有効活用することができる
- ・ 学校プールの設置費や維持管理費と比較して経費が掛からない など

第22回学校水泳研究会（オンライン会議）

付表1 水泳授業を自校プール以外で実施した場合の効果

		先行研究	自治体による検討			
			佐倉市	松阪市	上尾市	葛飾区
VFM						
財政負担の軽減 (コストの削減)		<p>民間プール（屋内）を活用することが学校プールの維持管理費を最も削減することができる。（南ら2016）</p> <p>学校プールの共同利用、既存の市民プールの活用により、小学校プールの集約化が期待できている。また、それに合わせて整備・運営に関して官民連携の導入を行うことにより、小学校プールの維持管理費削減効果を生む。（泉ら2019）</p> <p>公共プール施設で水泳授業を行うことは、学校プール維持管理費にかかる支出の削減ができる。（青柳2012）</p>	<p>&lt;65年間でかかる費用比較&gt;</p> <p>・従来型（学校プールの維持更新）の場合165.1億円、従来型+全校に水泳指導委託の場合177.2億円、学校プール廃止+市民プール整備+全校に水泳指導委託の場合163.1億円</p>		<p>・プール更新にかかる費用と民間活用した場合の費用を比較すると、民間活用を行った方が1校あたり年間費用約330万円の経費削減となる。</p>	<p>&lt;80年間でかかる費用比較&gt;</p> <p>・民間プールを利用した場合4.06億円、自校プールを利用した場合6.16億円、自校に屋内プールを設置して利用した場合20.18億円。</p>
質の向上						
①	① 泳力の向上	水泳指導を含めて授業を委託することで効率的・効果的な水泳指導が可能である。（南ら2016）	・専門指導者による効果的指導、児童の水泳レベルに応じた指導が可能。	・教員に加えて民間プール施設の指導員による指導で、児童にとって個々の泳力に応じた指導が受けられる。	・専門のインストラクターを活用した水泳指導ができる。 ・教員の水泳指導のスキルアップの機会となる。	・複数の専門のインストラクターを活用した水泳指導ができる。 ・子どもの技量に応じたグループ分けによる水泳指導の体制ができる。
②	② 計画的な授業の実施	<p>屋内プールで授業を行うことは気温や天候に左右されことなくスケジュールを組むことができる。（南ら2016）</p> <p>公共プール施設で水泳授業を行うことで、学校水泳授業の授業数の確保ができる（青柳2012）</p>	・外的要因（天候・光化学スモッグ・温度）に左右されず計画的に水泳授業を実施できる。	・屋内プールのため天候に左右されず授業が実施でき、水温・水質も良好で紫外線対策としても有効である。	・時期や天候に左右されない計画的な水泳授業ができる。	・天候に左右されない計画的な水泳指導ができる。 ・1年の中で計画的に水泳指導ができる。
③	③ 安全・安心の確保	民間スポーツクラブ等では、資格を持った専門的な指導者が配置されている（南ら2016）	・専門指導者+教職員による監視体制で安全性向上。		・事故や緊急時の設備が充実しており、安全性が担保されている。	・外部から視線の遮断や騒音配慮などの対応が不要となる。
④	④ 維持管理の充実			・衛生管理業務などの学校負担の軽減が図られる。	・学校プールの衛生管理にかかる教職員の事務及び人的負担が軽減できる。 ・プール設置場所の跡地を有効に活用することができる。	・学校プールの水質・水流失防止の管理などが不要となる。 ・改築校のプール設置場所を有効活用することができる。
⑤	⑤ 他施設との相乗効果（全体施設稼働率等）	公共プール施設で水泳授業を行うことは、公共施設の稼働率の向上を図ることができる。（青柳2012）				
⑥	⑥ その他					
参考資料			佐倉市（2019）	松阪市（2016）	上尾市教育委員会（2022）	葛飾区教育委員会（2020）

(出所) 各資料をもとに筆者作成

## 研究の目的

水泳授業を、自校プール、学校プールの共同利用、市民プールの活用、民間プールの活用を図って実施した場合に区分し、その効果を「質の向上」面から検証し、効果的な事業形態を明らかにすることを目的とした。

これを明らかにするため、先行研究や自治体が期待する効果を踏まえ、水泳授業の各形態（自校プール、学校プールの共同利用、市民プール利用、民間プール利用）による「質の向上」面の効果を、①泳力の向上、②計画的な授業の実施、③安全・安心の確保、④維持管理の充実、⑤その他、⑥他施設との連携効果に区分して検証した。その際、民間インストラクター活用の有無についても考慮した。

# 研究の枠組み

項目	内容	検証事項
1.泳力の向上	学習指導要領における「知識・技能」に関する目標の達成状況	第1～2学年：水を怖がらずに遊べる（浮く・もぐるができる）児童数の割合
		第3～4学年：泳ぎの基礎となる動きを習得（呼吸方法、伏し浮き、クロール・平泳ぎにつながる手足の動き）した児童数の割合
		第5学～6学年：クロール・平泳ぎが泳げる児童数の割合
		中学生：4泳法の習得している生徒の割合
	学習指導要領における「知識・技能」習得の速さ	「知識・技能」の習得スピードの変化
	泳力向上に向けた指導内容	練習内容のバリエーション
		児童・生徒の運動能力・水泳レベルに応じた指導
上達レベルが遅れている児童・生徒への対応		
児童に接する時間		
その他		
2.計画的な授業の実施	水泳授業の実施状況（⇔中止状況）	気温や天候等の影響により中止となった授業の割合
	水泳授業への児童・生徒の出席状況	寒さや暑さなど気候要因により欠席した児童・生徒の割合（欠席率）
3.安全・安心確保	事故等の状況	事故等の数
	「水泳指導の安全管理」の達成状況	児童・生徒の健康管理（注意を要する児童・生徒への対応を含む）
		監視体制
		緊急時の対応
	「水泳の安全指導」の達成状況	水の事故を防ぐための指導の実施（準備運動、人数確認、入水時・休憩の注意、着衣泳、救助法など）
「施設・設備の安全管理」の達成状況	プール施設の安全管理（清掃、整理整頓、救命具、看板・排水口等における事故防止など）	
	水位設定	
	水質管理など	
4.維持管理の充実	利便性の向上	更衣室とプール間の移動時間の短縮
		男女別更衣室、支援が必要な方が使える多目的更衣室等の設置
		更衣室やトイレ等の快適性
		その他
	維持管理の安定性等	水流失防止の管理
		維持補修の実施状況（早期・効果的な補修など）
その他	その他	
5.その他	その他	
6.他施設との連携効果	稼働率の向上	稼働率の変化
	その他相乗効果	他の公共施設・民間施設との相乗効果



## 研究の目的

水泳授業を、自校プール、学校プールの共同利用、市民プールの活用、民間プールの活用を図って実施した場合に区分し、その効果を「質の向上」面から検証し、効果的な事業形態を明らかにすることを目的とした。

これを明らかにするため、先行研究や自治体が期待する効果を踏まえ、水泳授業の各形態（自校プール、学校プールの共同利用、市民プール利用、民間プール利用）による「質の向上」面の効果を、①泳力の向上、②計画的な授業の実施、③安全・安心の確保、④維持管理の充実、⑤その他、⑥他施設との連携効果に区分して検証した。その際、民間インストラクター活用の有無についても考慮した。

## 研究結果（結論）

ヒアリング調査に基づく事例研究により検証した結果、  
明らかになった点を、

- a. インストラクターを活用したことによる効果
  - b. 使用場所による効果（ア.そもそもの施設特性から得られた効果、イ.備わる機能の活用による効果（ハード面（設備・備品等の活用）、ソフト面（マネジメント体制等の活用））
  - c. 自校プール等と比較した利用時の制約の違いによる効果
- に区分して整理

### ●水泳授業の各形態による比較

- …民間プールの活用・・・最も水泳授業の質の向上に寄与
- 市民プールの活用・・・一定の効果がある
- 学校プールの共同利用・・・質の向上を図る効果が認められない

## 研究結果（結論）

### 民間プールを活用

運営主体やインストラクターのノウハウ・専門性、屋内であるという施設特性、プールに備わる充実した設備・備品等やマネジメント体制を活用できるとともに、施設利用の制約も少ないことから、泳力の向上、計画的な授業の実施、安全・安心の確保、維持管理の充実すべての面で大きな効果をあげていること。

民間プール

項目	内容	効果	詳細
1.泳力の向上	「知識・技能」に関する目標の達成状況	概ね向上	—
	「知識・技能」習得の速さ	把握していない	—
	泳力向上に向けた指導内容	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりの泳力レベルに合った指導</li> <li>・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間の増加）</li> <li>・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習</li> <li>・インストラクターの接触指導による、早く・楽に泳げるコツの習得</li> <li>・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習</li> </ul>
	練習内容のバリエーション		
	児童・生徒の運動能力・水泳レベルに応じた指導		
上達レベルが遅れている児童・生徒への対応			
児童に接する時間			
2.計画的な授業の実施	水泳授業の実施状況（⇔中止状況）	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内プールであることによる授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上</li> <li>・屋内プール活用により、授業の実施時期に制約がなくなることによる計画的な授業の実施</li> </ul>
	水泳授業への児童・生徒の出席状況		
3.安全・安心の確保	事故等の状況	変化なし	—
	「水泳指導の安全管理」の達成状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> <li>・充実した水泳補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導</li> <li>・赤台（水深補助台）を使用した水深調整による入水時の安全確保</li> <li>・温水の使用、採暖室の利用などによる児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減</li> <li>・見学者の直射日光や体温上昇リスクの解消</li> </ul>
	児童・生徒の健康管理	一部向上	
	監視体制	向上	
	緊急時の対応	変化なし	
	「水泳の安全指導」の達成状況	向上	・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導
	「施設・設備の安全管理」の達成状況		—
プール施設の安全管理	変化なし		
水位設定	変化なし		
水質管理など	変化なし		
4.維持管理の充実	利便性の向上	一部向上 一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室・設備、空調、トイレ等が充実し、清掃も行き渡っていることによる利便性、快適性の向上</li> <li>・バス移動による移動時間の増加</li> </ul>
	維持管理の安定性等	変化なし	
5.その他		特になし	—
6.他施設との連携効果		特になし	—

## 研究結果（結論）

### 市民プールを活用

多くの場合に指定管理者が関与しているため指定管理者やインストラクターのノウハウ・専門性、プール等に備わる充実した設備・備品等やマネジメント体制を活用でき、泳力の向上、安全・安心の確保につながっていること。

一方、①ほとんどが屋外プールであること、②一般市民も利用するプールであるため利用時の制約が極めて多いことから、計画的な授業の実施や維持管理等の面で問題があること。

市民プール

項目	内容	効果	詳細
1.泳力の向上	「知識・技能」に関する目標の達成状況	概ね向上	—
	「知識・技能」習得の速さ	把握していない	—
	泳力向上に向けた指導内容	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童一人ひとりのレベルにあった指導</li> <li>・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間が増加）</li> <li>・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習</li> <li>・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習</li> <li>・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習</li> <li>・インストラクターによるアドバイスや称賛による、達成感や学習意欲の向上</li> </ul>
	練習内容のバリエーション		
	児童・生徒の運動能力・水泳レベルに応じた指導		
上達レベルが遅れている児童・生徒への対応			
児童に接する時間			
2.計画的な授業の実施	水泳授業の実施状況（⇔中止状況）	屋内：向上 屋外：変化なし	<屋内プールの場合> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上</li> <li>・授業の実施時期に制約がなくなることによる計画的な授業の実施</li> </ul>
	水泳授業への児童・生徒の出席状況		
3.安全・安心の確保	事故等の状況	変化なし	—
	「水泳指導の安全管理」の達成状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> <li>・児童・生徒の会話を傾聴し健康状態を把握することによる指導時の安全性向上</li> <li>・水深の浅い小プールや可動床など付属設備の活用による安全な入水・練習</li> <li>・屋内プールの場合には、温水の使用、採暖室の利用などによる、児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減</li> </ul>
	児童・生徒の健康管理	一部向上	
	監視体制	向上	
	緊急時の対応	変化なし	
	「水泳の安全指導」の達成状況	向上	・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導
	「施設・設備の安全管理」の達成状況		—
プール施設の安全管理	変化なし		
水位設定 水質管理など	変化なし		
4.維持管理の充実	利便性の向上	一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスで移動による移動時間増加</li> <li>・市民プールの老朽化に伴う維持管理の不安定性</li> </ul>
	維持管理の安定性等	一部低下	
5.その他		特になし	—
6.他施設との連携効果	稼働率の向上	向上	・施設全体の稼働率向上、知名度向上
	その他相乗効果		

## 研究結果（結論）

### 学校プールの共同利用

大半が民間のインストラクターを活用していないため、そのノウハウ・専門性、民間事業者のもつ設備・備品等やマネジメント体制を活用できないことに加え、屋外プールであること、他校が利用することによる制約があることから、泳力の向上、計画的な授業の実施、安全・安心の確保、維持管理の充実のいずれにおいても自校プール時とほとんど変わらないものとなっていること。

共同

項目	内容	効果	詳細
1.泳力の向上	「知識・技能」に関する目標の達成状況	概ね向上	—
	「知識・技能」習得の速さ	把握していない	—
	泳力向上に向けた指導内容	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりのレベルにあった指導</li> <li>・水泳授業のための補助道具を有効活用した練習</li> <li>・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習</li> <li>・インストラクターのアドバイスや称賛による、達成感や学習意欲の向上</li> </ul>
	練習内容のバリエーション		
	児童・生徒の運動能力・水泳レベルに応じた指導		
上達レベルが遅れている児童・生徒への対応			
児童に接する時間			
2.計画的な授業の実施	水泳授業の実施状況（≠中止状況）	変化なし	—
	水泳授業への児童・生徒の出席状況		
3.安全・安心の確保	事故等の状況	変化なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導・練習</li> <li>・インストラクターが加わり授業に携わる人数が増加したことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> </ul>
	「水泳指導の安全管理」の達成状況		
	児童・生徒の健康管理	一部向上	
	監視体制	一部向上	
	緊急時の対応	変化なし	
	「水泳の安全指導」の達成状況	変化なし	
	「施設・設備の安全管理」の達成状況		
プール施設の安全管理	変化なし		
水位設定	変化なし		
水質管理など	変化なし		
4.維持管理の充実	利便性の向上	一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス移動による移動時間の増加</li> <li>・学校間での業務負担の偏りが発生</li> </ul>
	維持管理の安定性等	変化なし	
5.その他		特になし	—
6.他施設との連携効果	稼働率の向上	特になし	—
	その他相乗効果		

付表2 研究の枠組みに基づいた検証結果

		民間プール		市民プール		共同利用	
項目	内容	効果	詳細	効果	詳細	効果	詳細
1.泳力の向上	「知識・技能」に関する目標の達成状況	概ね向上	—	概ね向上	—	概ね向上	—
	「知識・技能」習得の速さ	把握していない	—	把握していない	—	把握していない	—
	泳力向上に向けた指導内容	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりの泳力レベルに合った指導</li> <li>・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間の増加）</li> <li>・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習</li> <li>・インストラクターの接触指導による、早く・楽に泳げるコツの習得</li> <li>・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習</li> </ul>	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童一人ひとりのレベルにあった指導</li> <li>・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間が増加）</li> <li>・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習</li> <li>・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習</li> <li>・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習</li> <li>・インストラクターによるアドバイスや称賛による、達成感や学習意欲の向上</li> </ul>	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりのレベルにあった指導</li> <li>・水泳授業のための補助道具を有効活用した練習</li> <li>・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習</li> <li>・インストラクターのアドバイスや称賛による、達成感や学習意欲の向上</li> </ul>
	練習内容のバリエーション						
	児童・生徒の運動能力・水泳レベルに応じた指導						
上達レベルが遅れている児童・生徒への対応							
児童に接する時間							
2.計画的な授業の実施	水泳授業の実施状況（⇔中止状況）	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内プールであることによる授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上</li> <li>・屋内プール活用により、授業の実施時期に制約がなくなることによる計画的な授業の実施</li> </ul>	屋内：向上 屋外：変化なし	<屋内プールの場合> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上</li> <li>・授業の実施時期に制約がなくなることによる計画的な授業の実施</li> </ul>	変化なし	—
	水泳授業への児童・生徒の出席状況						
3.安全・安心の確保	事故等の状況	変化なし	—	変化なし	—	変化なし	—
	「水泳指導の安全管理」の達成状況	一部向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> <li>・充実した水泳補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導</li> </ul>	一部向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> <li>・児童・生徒の会話を傾聴し健康状態を把握することによる指導時の安全性向上</li> </ul>	一部向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導・練習</li> <li>・インストラクターが加わり授業に携わる人数が増加したことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化</li> </ul>
	児童・生徒の健康管理						
	監視体制	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤台（水深補助台）を使用した水深調整による入水時の安全確保</li> </ul>	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水深の浅い小プールや可動床など付属設備の活用による安全な入水・練習</li> </ul>	一部向上	
	緊急時の対応	変化なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温水の使用、採暖室の設置などによる児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減</li> <li>・見学者の直射日光や体温上昇リスクの解消</li> </ul>	変化なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内プールの場合には、温水の使用、採暖室の利用などによる、児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減</li> </ul>	変化なし	
	「水泳の安全指導」の達成状況	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導</li> </ul>	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導</li> </ul>	変化なし	—
	「施設・設備の安全管理」の達成状況	変化なし	—	—	変化なし	—	変化なし
プール施設の安全管理							
水位設定							
水質管理など							
4.維持管理の充実	利便性の向上	一部向上 一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室・設備、空調、トイレ等が充実し、清掃も行き渡っていることによる利便性、快適性の向上</li> </ul>	一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスで移動による移動時間増加</li> <li>・市民プールの老朽化に伴う維持管理の不安定性</li> </ul>	一部低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス移動による移動時間の増加</li> <li>・学校間での業務負担の偏りが発生</li> </ul>
	維持管理の安定性等	変化なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス移動による移動時間の増加</li> </ul>	一部低下	—	変化なし	
5.その他		特になし	—	特になし	—	特になし	—
6.他施設との連携効果		特になし	—	向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体の稼働率向上、知名度向上</li> </ul>	特になし	—

付表3 新たな視点で整理した項目に基づいた検証結果

		民間プール			市民プール			共同利用					
インストラクター・監視員の活用		あり			なし			あり			なし		
施設の概要		屋内			屋外			屋内			屋外		
高度なノウハウ・専門性を持つインストラクターを活用したことによる効果	泳力の向上	・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりの泳力レベルに合った指導 ・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間の増加） ・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習、安全面に配慮した指導 ・インストラクターの接触指導による、早く・楽に泳げるコツの習得 ・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習			・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童一人ひとりのレベルにあった指導 ・グループ別の指導による、プールサイドでの待ち時間の短縮（プールの中にいる時間や練習時間の増加） ・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習 ・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習 ・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習 ・インストラクターによるアドバイスや称赞による、達成感や学習意欲の向上			・同等の泳力レベルのグループに分けた上での、児童・生徒一人ひとりのレベルにあった指導 ・水泳授業のための補助道具を有効活用した練習 ・個別の課題を解消するための分解練習やバリエーションに富んだ練習 ・インストラクターのアドバイスや称赞による、達成感や学習意欲の向上					
	計画的な授業の実施	—		—		—		—		—			
	安全・安心性の確保	・赤台（水深補助台）を使用した水深調整による入水時の安全確保（水泳指導の安全管理） ・充実した水深補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導（水泳指導の安全管理） ・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導（水泳の安全指導）			・水深の浅い小プールや可動床など付属設備の活用による入水時の安全確保・練習（水泳の安全管理） ・児童・生徒の会話を傾聴し健康状態を把握することによる指導時の安全性向上（水泳指導の安全管理） ・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導（水泳の安全指導）			・水泳補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の使用による安全面に配慮した指導・練習（水泳指導の安全管理）					
	維持管理の充実	—		—		—		—		—			
	その他	—		—		—		—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			
そもそも施設特性から得られた効果	泳力の向上	—		—		—		—		—			
	計画的な授業の実施	・授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上 ・見学者の直射日光や体温上昇リスクの解消			・授業の中止の解消、児童・生徒の出席率の向上 ・授業の実施時期に制約がないことによる、柔軟な授業計画の作成・実行			変化なし		変化なし			
	安全・安心性の確保	—		—		—		—		—			
	維持管理の充実	—		—		—		—		—			
	その他	—		—		—		—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			
場所を使用してきたことによる効果	泳力の向上	・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習 ・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習			・赤台（水深補助台）やヘルパー（浮き具）などの道具を活用することによる、苦手意識や恐怖心を取り除いた練習 ・プールサイドや使用するコースなどを有効に活用した効果的な練習			変化なし		変化なし			
	計画的な授業の実施	—		—		—		—		—			
	安全・安心性の確保	・充実した水深補助具（ヘルパー（浮き具）、ビート板など）の利用による安全面に配慮した指導 ・赤台（水深補助台）を使用した水深調整による入水時の安全確保（水泳指導の安全管理） ・温水の使用、採暖室の設置などによる、児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減（水泳指導の安全管理）			・屋内プールの場合、温水の使用、採暖室の利用などによる、児童・生徒の寒さによる身体への負担の軽減（水泳指導の安全管理）			・水深の浅い小プールや可動床など付属設備の活用による入水時の安全確保・練習（水泳の安全管理）			変化なし		
	維持管理の充実	更衣室・設備、空調、トイレ等が充実し、清掃も行き渡っていることによる利便性、快適性の向上			—			変化なし			変化なし		
	その他	—		—		—		—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			
備わる機能の活用による効果 ハード面 （設備・備品等の活用）	泳力の向上	—		—		—		—		—			
	計画的な授業の実施	—		—		—		—		—			
	安全・安心性の確保	・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化（水泳指導の安全管理） ・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導（水泳の安全指導）			・インストラクター・監視員など授業に携わる人員が増えたことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化（水泳指導の安全管理） ・水難時の泳ぎ方や着衣泳など水の事故を防ぐための指導（水泳の安全指導）			・授業に携わる人数が増加したことによる事故や危険に対するリスクマネジメントの強化（水泳指導の安全管理）			変化なし		
	維持管理の充実	—		—		—		—		—			
	その他	—		—		—		—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			
備わる機能の活用による効果 ソフト面 （マネジメント体制等の活用）	泳力の向上	—		—		—		—		—			
	計画的な授業の実施	—		—		—		—		—			
	安全・安心性の確保	—		—		—		変化なし		変化なし			
	維持管理の充実	—		—		—		—		—			
	その他	—		—		—		—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			
自校プールと比較した利用時の制約の違いによる効果	泳力の向上	—		—		—		—		—			
	計画的な授業の実施	・屋内プール活用により時期に関する制約がないことによる、柔軟な授業計画の作成・実行			・授業の実施時期に制約がないことによる、柔軟な授業計画の作成・実行 ・使用期間に制限があることによる授業時間の確保（マイナス面） ・一般住民も利用するプールであることに伴う、利用日の調整（マイナス面） ・一般利用者と共用する場合の円滑な授業の進行（マイナス面）			・使用期間に制限があることによる授業時間の確保（マイナス面） ・一般住民も利用するプールであることに伴う、利用日の調整（マイナス面） ・一般利用者と共用する場合の円滑な授業の進行（マイナス面）			・天候や気温の影響による水泳授業の中止に伴う学校間における振替授業の調整（マイナス面）		
	安全・安心性の確保	—		—	・一般利用者と共用する場合の児童・生徒の安全確保（マイナス面）			・一般利用者と共用する場合の児童・生徒の安全確保（マイナス面）			・一般利用者と共用する場合の児童・生徒の安全確保（マイナス面）		
	維持管理の充実	—		—	・一般住民も利用するプールであることに伴う市民への周知、苦情への対応（マイナス面） ・施設の老朽化に伴う維持管理の不安定性（マイナス面）			・一般住民も利用するプールであることに伴う市民への周知、苦情への対応（マイナス面） ・施設の老朽化に伴う維持管理の不安定性（マイナス面）			・一般住民も利用するプールであることに伴う市民への周知、苦情への対応（マイナス面） ・施設の老朽化に伴う維持管理の不安定性（マイナス面）		
	その他	—		—	—			—		—			
	他施設との連携効果	—		—		—		—		—			

## 研究結果（結論）

各事業形態において、水泳授業の効果をより一層高めるために求められる  
主な課題

- 事業者による差が生じないように、学校側と民間事業者側の相互理解を深め、役割分担（指導体制、安全確保等）を明確にし、密接な連携を図ること。
- 自校プール以外を活用した水泳授業の内容、効果等について検証し、その検証結果を反映させること。
- 他の利用者等に配慮した、利用日の調整、円滑な授業の進行、児童・生徒の安全確保への配慮等に努めること。
- 屋外プールにおいては、天候等による水泳授業の中止をあらかじめ想定した授業スケジュールの設定を図ること。



## 研究結果（結論）

表 2-11 大阪府における暑さ指数

	水泳授業実施期間 (6月3週目～7月4週目を想定)	平日の日数 (a)	授業中止の 可能性がある日数 (b)		授業中止の 可能性がある日数 の割合 (b/a)	
			WBGTが 28度以上	天気が雨		
2018年	6月13日～7月20日	27日	15日	11日	4日	55.6%
2019年	6月12日～7月19日	27日	5日	0日	5日	18.5%
2020年	6月15日～7月22日	28日	15日	3日	12日	53.6%
2021年	6月14日～7月21日	28日	13日	5日	8日	46.4%
2022年	6月15日～7月22日	27日	13日	6日	7日	48.1%
平均		27.4日	12.2日	5日	7.2日	44.5%

(出所) 環境省熱中症予防情報サイトおよび [tenki.jp](http://tenki.jp) より筆者作成

## 研究結果（結論）

表 2-12 学校教育（水泳）とスイミングスクールの考え方の違い

共通認識	児童の成長	
	学校	スイミングスクール
目的	生きる力の育成	泳力の向上（技能の習得）
目標	3つをバランスよく育てる ①「知識及び技能」の習得 ②「思考力・判断力・表現力」の育成 ③「学びに向かう力、人間性」の涵養	テストの合格
手段	水泳授業 ・泳ぎ方を学ぶこと ・授業に進んで取り組むこと ・友達と仲良く、励まし合い助け合って活動すること	レッスン ・スポーツの楽しさを伝える練習を行う ・チャレンジする気持ちを育てる練習を行う ・「できた」達成感を感じる練習を行う
評価方法	3つの観点から総合的に評価 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力、人間性	進級基準に則った泳力評価

（出所）学習指導要領、各スイミングスクールのコンセプトをもとに筆者作成

## 研究課題

本研究では、自校プール以外を活用した水泳指導の効果を「質の向上」面から検証し、先行研究のある財政負担の軽減面については考察していない。このため、財政負担の軽減の観点を含め総合的な検証を行うことも重要である。

また本研究では、水泳授業の実施場所（民間プール、市民プール、学校プールの共同利用）（**3種類**）とインストラクター活用の有無（**2種類**）に考慮して検証したが、そこに屋内プールと屋外プール（**2種類**）を加えると**12**の組み合わせ（民間の屋外プールは見当たらないため実際上は**10**の組み合わせ）がある。このため、この組み合わせそれぞれについて多くの事例研究を積み重ね、最も望ましい水泳授業の形態について検討することも重要な視点となる。

ご清聴ありがとうございました。